



## 香取 薫

一般社団法人東北経済連合会 参与

祭りは終わった。  
急がば回れ。

2021年7月27日、国際通貨基金(IMF)は世界経済見通しを公表しました。それによれば、2021年の世界の成長率は前年比6.0%であり、先進国で見通しが改善し、発展途上国は悪化しています。一方、日本は2.8%という数値で先進国で最大の下方修正となりました。コロナ予防ワクチン接種の進む先進国の改善を尻目に日本は遅れが目立っています。新型コロナウイルスが日本の成長を阻害しているのは事実ですが、もっと長期的で本質的な問題が日本経済に内在されているのではないかと考えざるを得ません。日本のGDPは世界第2位から第3位に落ち、さらに下降するのも時間の問題だと言われています。エコノミックアニマルと揶揄されたのはいつのことだったのでしょうか？我々は、他者の目を気にしすぎたのかもしれませんが。(もちろん、他者の目で客観的に、わが身を振り返り、改善することは大切であることはいまでもありません。)人口減少社会の中で、今後どのように生きていくべきかを、真剣に見つめなおさなければならないと思います。

青森公立大学は、青森地域における高度な教育研究機会の確保が求められる中、20万人を超える署名と20億円を超える寄付など、地域の方々の支援と期待を担い、1993年に開学した学生数1300名規模の経営経済系の大学です。専門知識を持った教養人を育成することを使命としています。大学附属の国際芸術センターは、国内外のアーティストが滞在し、作品制作や、展覧会を行うアーティストインレジデンスです。設計は安藤忠雄氏によるもので、多くの見学者を迎えるとともに、在学生の教育に利用されています。

地域の課題解決のための研究や実践が、地域経済を活性化させ、東北や日本の経済に好影響を与えられれば願ってもないことだと思います。産学連携は、その意味で非常に大切な要素で、今後とも産業界、経済界の皆様のご支援をお願い申し上げます。

私たちは、教育が経済や社会の発展に欠かせないものだと信じています。適切な教育が成されることが、「急がば回れ」だと思うのです。

本年度は「青森を食べようプロジェクト」と称する、新規事業の立ち上げを某石油販売会社様と一緒に実施することになり、学生諸君の貴重な実践の場(フィールド)となっています。

(青森公立大学 学長・かとり かおる)